



こよみの上では立春というものの、まだまだ厳しい寒さが続いております。

皆さまには毎月のモニタリング調査にご協力いただき誠にありがとうございます。今年もインフルエンザが猛威をふるっておりますので、外から帰ったら手洗い、うがいを十分に心がけて健康に留意しましょう。



### ふちもに活動情報

- 「油ヶ淵流域の環境を考える集い」  
開催日時：平成21年2月14日(土)  
9:00~11:00  
場所 南部公民館多目的ホール  
主催 エコネットあんじょう河川部会  
(事務局：安城市環境都市推進課)  
後援 安城市教育委員会等  
油ヶ淵水質浄化促進協議会  
内容 企業、学校、ボランティアによる油ヶ淵等に関する活動発表

### ●1月のコメント

- ・水量が少ない(10件)
- ・水生生物が見当たらず。(3件)
- ・透視度は秋に比べるとかなり悪くなっていたのが意外だった。
- ・アオミドロ茶色に変色、死滅?
- ・毎年、沢山いた百合鷗の数が少ない。
- ・空には雁が群れ飛び、湖上は鴨が群れて生気が漂う。

### 油ヶ淵キーワード◎ “ パックテスト ”

CODパックテストの色が変わるのはチューブに入っている白い粉に過マンガン酸カリウム〔強い酸化剤〕が含まれているからです。検水の有機物等と過マンガン酸カリウムが酸化還元反応をすることで、過マンガン酸イオン(過マンガン酸カリウムが水に溶けた状態)の色が変わるのです。

反応していない過マンガン酸イオンは赤紫色で、有機物と反応して消費(還元)されていくと赤紫色→緑色→褐色と変色していきます。

有機物の量が多いほど酸化還元反応が進みません。



## ズームイン!

### — 米津小水質パトロール隊 —

私たち4年生67名は、総合学習で「大好き、朝鮮川」というテーマで、学校そばの朝鮮川の水質調査や、水生生物調査、川の水が汚れる原因を調べています。

水質調査では、毎月1回、6人程度のグループで朝鮮川に出かけ、調査を行っています。春先には水が多く濁っていましたが、今は泳ぐ魚も見えるくらいきれいな水が流れています。流れは思ったより速く、びっくりしました。また、1年を通して調べていくと、朝鮮川の水量は稲を育てる事に関係していることに気がつきました。

9月にアイシン精機の方の協力で、朝鮮川の生き物調べをしました。生き物は、水草が生えている場所や、川岸に



予想しました。そこで一人が草の生えている場所を上流から下流に向けて揺すります。他の人は下流側でタモをもって待っています。すると、オイカワ、ゴリ、カダヤシ、スゴモロコ、ギギ、タモロコ、チチブ、ヨシノボリ、ドジョウ、ブルーギル、ザリガニ、シジミ、テナガエビ、スジエビ、トンボの幼虫、ツチガエル、ヌマガエル、ゲンゴロウなど、19種類の生き物を捕まえることができました。いろいろな生き物がいてびっくりしました。この中には、比較的きれいな水に棲んでいるスジエビやきたない水に棲んでいるアメリカザリガニなど、混在していることがわかりました。

11月には、木曾三川公園の河川環境楽園に行って川の水がどうして汚れるのか、学習してきました。川の水は、落ち葉や田畑から流れ出る土、私達の食べ残しや、洗濯や食器洗いなどの生活排水、工場とかの廃水で徐々に汚れていくことがわかりました。



今、朝鮮川には、ゴミや、空き缶やガラスの破片があって安全に遊ぶことができません。そこで、私たちは、ゴミ拾いをしたり、朝鮮川に棲む生き物のポスターを作ってみんなに紹介したりして、朝鮮川が、ゴミのないきれいな川、魚釣りや水遊びができる身近な川であってほしいと願っています。



## ズームイン 油ヶ淵周辺出身 一水地盤環境課 中根技師一

私が現在住んでいる西尾市の中畑と油ヶ淵とは、矢作川を挟んでとても近い位置にあります。しかし小さい頃には日本一汚れた湖沼という話を聞くだけで、高校生になるまで現地に行ったことは一度もありませんでした。

高校の時、私は自転車通学で、帰りに散歩がてら矢作川沿いや周囲の水田地帯をよく走っていました。ある時、矢作川を越えて油ヶ淵の湖畔まで行ったことがあり、これが初めてでした。岸に青草が茂り、湖面からボウがしきりに跳びはねていたのをよく覚えています。

その後、再び油ヶ淵を訪れたのは大学4年生の8月、碧南水族館で行われた学芸員実習に参加した時でした。実習の中で、小学生対象の環境学習講座の補助員を任せられ、油ヶ淵でのブルーギル釣りと、そのブルーギルを解剖し食性を調べるという作業を子供達と一緒に体験しました。外来魚のブルーギル以外にも魚類が何種類か見られ、解剖作業では胃袋からシジミやアメンボなど色々な生きものが確認でき、油ヶ淵の生物層の豊かさや生きもの同士のつながりを子供達と共に実感することができました。

同じ年の10月には、上流の朝鮮川で卒業研究の水草調査を行いました。この時の調査では6種類の水草が見つかり、その中には全国的に見て希少なものもありました。私が調査した限りでは、周辺地域の河川の中でもかなり水草の多様な河川であるという印象を受けました。

油ヶ淵は水質の悪い湖沼であるといわれていますが、一つ一つの自然を観察していくと、色々な生きもの暮らしの水辺であることを実感します。これからも身近な水辺の生きものたちに目を向けることを忘れないようにしたいと思います。（規制・監視グループ 中根）



（左）環境学習講座の様子  
（碧南水族館博物館実習中）



（右）油ヶ淵上流の朝鮮川に多く見られる水草群落



## ふちもに事務局だよ 流域モニタリング一斉調査について

「流域モニタリング一斉調査」とは、森から海までの流域全体を視野に入れ、水循環の現状とその変化を把握するため、県民・事業者・民間団体・行政が協力して流域の水環境の状況を調査するものです。

この調査は、「あいちの水循環再生指標」（平成19年7月作成）を用いて、年に1回、みなさんの身近な水辺（河川、湖沼、海、水路、ため池など）で「水質」、「水量」、「生態系」、「水辺の親しみやすさ」についての調査を行っていただくもので、今年から県内全域で環境の日（6月5日）の前後1週間に一斉に行います。内容は、油ヶ淵流域で水質調査を行っているみなさんの調査に項目を少し追加したものとなっております、気軽に参加していただけます。

### あいちの水循環再生指標の主な調査項目

	主な調査項目
水質	水の汚れ（COD）、水の色、濁り、におい、水底の感触
水量	水深、水の流れの変化、流速、湧水
生態系	水生生物、魚、水際・水辺周辺の植生、周辺の生きもの
水辺	透視度、ごみ、水辺への近づきやすさ、水辺の自然度

※「あいちの水循環再生指標」については、水循環 Web ページをご覧ください。アドレスは、  
<http://kankyojoho.pref.aichi.jp/mizujunkan/index.html>

調査結果は、水循環再生に向けて地域の实情に即して作成した「西三河地域水循環再生行動計画」（平成20年3月作成）の評価や見直しに役立てるとともに、調査を通じて県民の方々の水循環再生への理解を深め、取組への参加意欲を高めていただくことにつなげます。

健全な水循環を再生するために、県民・事業者・民間団体・行政の、水に関わる全ての主体が同じ目標に向かい手を携えて取組を進めていきます。みなさんで身近な水辺の水質や水量、生態系を調べてみましょう。

調査・計画グループ 角田

### 油ヶ淵流域市民モニタリング

### ふちもに情報局 vol. 18 平成21年2月発行

発行 愛知県環境部水地盤環境課

調整・生活排水グループ

〒460-8501

名古屋市中区三の丸三丁目 1-2

電話 052-954-6219 (タ イルイ)

mail : mizu@pref.aichi.lg.jp